

写真・動画企画「命のゆりかご」取材で知った瀬戸内海の魅力と課題

中国新聞報道部 衣川 圭

①連載「命のゆりかご」とは

私たちにとって一番身近な海、瀬戸内海の豊かさや変化に焦点を当て、魚や鳥、カニの目線から生態系に迫る。スタートは2010年10月。中国新聞朝刊に月2回掲載。

②なぜ、今連載か

- ◆瀬戸内海は中国新聞社が継続報道する主要テーマ。海中に特化した企画はなかった
- ◆昨年10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を開催
- ◆環境省は国立公園内の海域公園地区を倍増方針（周防大島沖のサンゴ群生地一帯も候補に）
- ◆水質指標は改善傾向。でも本来の生命力を取り戻せていないのでは
- ◆漁業などで生計を立てる人が減り、身近な海への関心が薄れているのでは

③これまでのテーマ

放置たこつぼで卵を守る「母ダコ」を取り上げて以降、広島湾に戻ってきたクジラやイルカの仲間「スナメリ」や、稚魚の命を育む「アマモ場」、生きた化石「カブトガニ」など27のテーマを紙面掲載。ホームページでは動画（会員向け）も見られる。

④取材の留意点

- ◆まず写真ありきの企画なので、ぱっと見ただけで印象に残る撮影
- ◆潜水取材もヘリ取材も安全第一。海をよく知る人とバディで潜る
- ◆自らが感じた新鮮な驚きや感動を伝える
- ◆「変わったこと」「変わらないこと」を常に意識
- ◆専門家の客観的な分析を交える

⑤取材を通して見えてきたもの

- ◆潜れば潜るほど不可思議な生態に遭遇。取材するほど分からないことも増える
- ◆季節や潮の流れ、天気など、同じ場所でも毎回海の中の様子が変わる
- ◆干潟や藻場、岩礁帯などのさまざまな環境や、潮流の複雑さが多様な生物相を育む
- ◆人の都合で環境を変え、生物に変化が見られるケースも
- ◆食卓から地場の魚が遠のいている
- ◆継続的な観察が重要。情報共有して豊かな海を
- ◆海と人の営みを再び近づけたい

過去記事はこちら→<http://www.chugoku-np.co.jp/kikaku/yurikago/index.html>

今後も第2、4日曜日に掲載します。情報提供やご感想をお待ちしています。

映像部 ファクス：082(294)0232 メール：shasin@chugoku-np.co.jp

